

日本経済新聞

島研
児波
鹿超

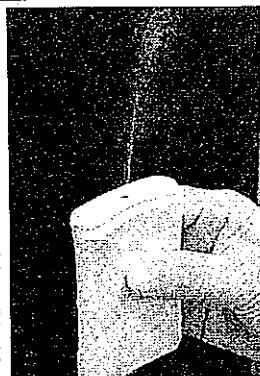
霧化器手のひら大

美容分野向け 年内メド量産化

超音波を活用した機器の開発を手掛ける鹿児島市、坂元明憲社長は、手のひらサイズの霧化器を開発した。新しい霧化

方式を採用することで、小型でも細かな粒子の霧を噴射できるようにした。年内にも化粧品メーカーなど美容分野向けに販売を始める予定。

ノックの中に通った管が毛細管現象によって液体を吸い上げ、超音波振動と微細な穴の空いた極薄なフィルターを通じて粒子の細かくそろった霧を生



ボタンを押すと細かな粒子の霧が噴き出す

本体の電源ボタンを押し続けることと直径数mmの二つの圧電素子に電流が流れ、超音波振動が発生。タンクの中には通った管が毛細管現象によって液体を吸い上げ、超音波振動と微細な穴の空いた極薄なフィルターを通じて粒子の細かくそろった霧を生

コストも二分の一度で済むとしている。試作器の寸法は高さ八センチ、幅六センチ、厚さ一・五センチ。単四型乾電池二本を使って連続十時間程度動

く。「タンクの容量や駆動方式次第で高さ三センチ、幅五センチ、厚さ一センチ程度まで小型にできる」と(坂元社長)としている。今後、改良を重ねて年

内をメドに量産化にこぎ着け、化粧品メーカーや香水メーカーにアロマオイルや香水などの噴霧用途で販売する予定。その後は医療用途の機器の開

発も見据える。鹿児島超音波総研の〇七年三月期の売上高は四億五千万円のもよみで、一〇年三月期に年商十三億円を目指す。